

特別活動 学級活動（１）指導案作成例

第 1 学年〇組 学級活動（１）指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

議題は生徒の意見から設定する。

1 議題 「よりよい学級生活をつくる」
学級活動（１） ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

※以下に示した項目の内容を含んだものにして記述すること。

- (1) 生徒の実態（略）
 - ・生徒の学級生活における実態
 - ・これまでの学級活動の取組
 - ・評価規準からみた話し合い活動における課題や目指す方向
- (2) 議題選定の理由（略）
 - ・議題が選定された背景や教師の指導観
 - ・評価との関わりについて

『指導と評価の一体化』のための
～』P. 25第2編を参考にする。

3 評価規準

| | | |
|--|--|---|
| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
| 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや、他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。 | 学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 | 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。 |

※評価規準は、学習指導要領「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて、学校ごとに設定すること。

4 事前の活動

| 日時 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 【観点】〈評価方法〉 |
|----------------------------------|---|---------------------------|--|
| 〇月〇日 () 入学式後 | 「学級開き」 〇ねらい ・自分の実態を知る。 〇活動 ・小学校の「キャリア・パスポート」から、今の自分ができていることと、できていないことをまとめる。 | ・様々な視点から、自分自身を振り返るように促す。 | |
| 〇月〇日 () 朝の会 及び 帰りの会 | 「自分の考える学級目標」 〇ねらい ・自分の実態と担任の思いから自分なりに学級目標を考える。 〇活動（個人） ・自分なりに学級目標を考える。 | ・『よりよい学級生活をつくろう』シートを活用する。 | ◎自分の実態と担任の思いを知り、学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉 |

『指導と評価の一体化』のための
～』P. 47を参考にする。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

互いの意見や可能性を生かし合った話し合いの活動の仕方を身に付け、異なる意見から共通点を見だし、合意形成に向け（個人として）取り組む。

(2) 生徒の活動計画（別紙）

(3) 教師の指導計画

※生徒の活動計画として、本時の学級会ファイルを別紙として添付すること。

| 話し合いの順序 | 指導上の留意点 | ◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉 |
|---|---|--|
| 1 はじめの言葉 2 計画委員会の自己紹介 3 議題の確認 4 提案理由や話し合いのめあての確認 | <ul style="list-style-type: none"> めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 <p>「互いの意見を尊重し、異なる意見からも共通点を探して、学級目標を決定しよう」</p> | ◎互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。 |
| 5 先生の話 | | |
| 6 話し合い ①個人で考えてきた学級目標をグループで出し合う ②グループとしての学級目標を決め、発表する。 ③司会が調整役を果たしながら、合意形成に向けて練り合う。 ④折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 司会が進行に困ったときは方向性を示唆するだけで、生徒の合意形成を方向付けるような助言はしない。 発表している人の考えを聞き、ポイントをメモさせる（付箋紙等を活用する）。 必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 司会が、学級活動を進めているため、展開の中で教師が全生徒を、観察により見取り、評価を行う。 合意形成した学級目標を全員で確認させる。 <p>「1年〇組の学級目標は△▲□■としていいですか。」</p> | ◎異なる意見から共通点を見だし、合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。 |
| 7 先生の話 | | |
| 8 次の予告 | | |
| 9 おわりの言葉 | <ul style="list-style-type: none"> 実践に向けての担任からの合意形成した糧や全員で決めた学級目標に対する思いを聞かせる。 生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。 次は、学級目標を踏まえての個人の1学期の目標を決めることを予告する。 学級会ファイルに自己評価を記入し提出させる。 | ◎【知識・技能】 〈ワークシート〉 ◎【思考・判断・表現】 〈ワークシート・観察〉 |

十分満足できる活動の状況を想定して具体的に記述する。

※【努力を要する活動の状況と判断される場合】は、どのような支援をするかを具体的に設定しておくこと。（指導上の留意点などに記述すると良い。）

※評価は、本時のみで見取るのではなく、事前・事後も確実に評価すること。

6 事後の活動

| 日時 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | ◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法) |
|--------------------------------------|---|----------------------|---|
| ○月○日 () 朝の会 及び 帰りの会 | 「よりよい生活をつくろう」 ○ねらい ・学級目標から個人の1学期の目標を考える。 ○活動 ・自分の1学期の目標、具体的な取組を考え、掲示する。 | ・常に学級目標に立ち返らせて考えさせる。 | ◎学級目標を踏まえて、個人の1学期の目標に取り組もうとしている。 【主体的態度】 (ワークシート) |

《参考・引用文献》

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』(文部科学省 2017年)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 特別活動』

(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020年)

『学級・学校文化を創る 特別活動 中学校編』

(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2015年)